

# 論文審査の要旨及び担当者

No.1

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	佐藤 健
論文審査担当者	主 査	政策・メディア研究科委員	兼環境情報学部教授	大堀壽夫
	副 査	政策・メディア研究科委員	兼環境情報学部教授	中浜優子
	副 査	政策・メディア研究科委員	兼総合政策学部教授	國枝孝弘
	副 査	慶應義塾大学 名誉教授	田中茂範	
	副 査	青山学院大学 経済学部教授	小張敬之	
学力確認担当者：				

佐藤健（さとうたけし）君（現東京農工大学・工学研究院・言語文化科学部門 准教授）は2004年3月に政策・メディア研究科後期博士課程を単位取得退学、その後研究を重ね、論文「第二言語語彙学習におけるイメージ・スキーマ理論の応用：学習者要因を考慮したビジュアル・アノテーションの効果研究」を提出した。原著論文、国際会議発表共に基準を満たしている。2020年5月8日に博士論文審査申請、同27日に委員会設置承認、その後10月28日に公聴会、12月23日に最終試験を上記論文審査担当者によって行った。

佐藤君の博士論文は、習得が難しいとされる英語語彙項目である多義語としての前置詞学習に焦点を当て、イメージ・スキーマ理論を応用した図的注釈（visual annotation）の有効性、及びイメージの形態（静止画・動画）と学習者要因（情報処理プロセス・母語）の語彙学習プロセスへの影響を検証することを試みたものである。研究の新規性は特に次の二点について認めることができる。第一。L2語彙習得、認知言語学、コンピュータ支援外国語教育を横断する学際的な視点に立ちつつ、学習者要因（認知的オリエンテーション）がイメージ・スキーマを援用した図的注釈がもたらす効果に差をもたらすことを実証的に証明したこと。第二。本研究は日本と台湾という異なる言語環境での英語学習の場において、同一のイメージを用いて検証実験を実施することで、イメージ利用語彙学習に母語が及ぼす影響を実証した初の研究と言える。

検証は多岐に渡るが、主要な知見をまとめると、前置詞の空間概念を注釈として表示する際、言語による説明より平面イメージの方が、語義の適切な選択が促進されること、特にアニメーションを利用した場合に比喩的意味などの意味の拡張プロセスがよりよく把握されること、およびイメージを介して情報処理を行う傾向がある imager は、言語を介して情報処理を行う傾向を持つ verbalizer と比べ、前置詞の空間概念を動的イメージで示すと語の比喩的意味の産出が促進されることが明らかになった。

今後の研究への示唆としては、マルチメディア環境での外国語学習のための最適な学習環境構築へ向けた具体的な成果が得られた一方で、学習者要因を意識した上でマルチメディア利用外国語学習を行う必要があることが提案された。学習者の認知的オリエンテーションを適切に把握することができれば、それに合わせた学習プログラムのカスタマイズが可能となる。

以上、本研究は多方面への示唆を含んだ、第二言語習得と認知言語学の双方にまたがる貴重な研究成果である。公聴会、及び最終試験において、審査委員全員より本論文を博士（学術）の学位論文として合格と認める旨の審査結果を得たことをここに報告する。